

今日の最初のテーマは、インフレについてです。

インフレというのは、いろいろな商品の値段が継続して上がっていく現象ということで理解されていると思います。

日本においても過去に何度か激しいインフレが起こっています。

新しいところでは、一九七〇年代に起こった現象を挙げることができます。石油製品から始まった価格の上昇は日用品などにも広がっていききました。そういう中で、トイレットペーパーが品不足になるのではないかと不安が国民の間に湧き起こります。トイレットペーパーを求めて売場に殺到する人々の姿をメディアなどで目にした方も多いと思います。狂乱物価と言われるこのときのインフレ率は二〇%を超えていました。

しかし、世界的に見ると、さらに激しいインフレが何度か起こっています。

よく知られているものとして、第一次世界大戦後のドイツのケースがあります。パンの値段が一か月で三百倍にもなったといえますから、想像を絶する激しさです。

日本においては、戦後、経済が安定してきてからのインフレ率は、例に挙げた狂乱物価などを除くと、おおむね五%程度で推移してきました。ところが、一九九〇年代の半ばになると、インフレ率が時にマイナスを記録するような時代がやってきます。デフレとも言われるこの状態は二十年以上も続くことになりました。

しかし、このところ様々な商品やサービスの値段が上がってきています。今の若い人たちにとっては初めて経験することになるインフレの時代がすぐそこまで来ているのかもしれない。次のテーマに移りたいと思います。次は路線バスに関するお話をします。

路線バスに関してよく聞く話が幾つかあります。まず一つは、どのドアから乗ったらいいのかわからないということです。ほとんどの路線バスには前と後ろの二か所にドアがあります。路線によって前から乗るケースと後ろから乗るケースがあります。初めて乗る路線などでは、どのドアから乗るのかまごつくこともあるかもしれません。

もう一つは、いつ料金を払うのかという問題です。乗るときに払うのか降りるときに払うのか

かわからないという話もよく聞きます。どこまで乗っても同じ料金の場合には、乗るときに払うことが多いように思います。一方、乗車する距離によって料金が変わってくるケースでは、降りるときに払うケースがほとんどではないかと思えます。

面倒な例ばかりを挙げてしまいましたが、路線バスには、たまに乗ると楽しいこともたくさんあります。

大体、路線バスは、目的地まで最短距離で走るといったことはまずありません。病院や学校の近くをわざわざ遠回りして走っていくこともあります。あるいは、田園風景の中を集落を巡りながら走ることもあるでしょう。そういうときに車窓から見える風景はなかなか新鮮であります。こんなところに公園があったのかとか、きれいな小川が流れているんだというような新たな発見もあります。乗り込んできた子供たちの集団に頬が緩むこともあるかもしれません。

忙しい毎日ではありますが、時間を見つけて路線バスの小さな旅を楽しんでみませんか。

(了)